

はじめに

令和2年度から小学校を皮切りに随時全面実施となる新学習指導要領において、体育科・保健体育科の目標にある「体育の見方・考え方」は、「生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連づけること」と示されています。

つまり、運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることと体力の向上につながっていることに着目するとともに、運動やスポーツとの多様な関わり方について考える体育・保健体育の授業の更なる充実が必要となることが考えられます。

令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学5年、中学2年対象）によると、本県においては体力合計点で両学年とも全国平均を上回り、各学校における学校総体としての体力向上に向けた取組の成果が表れているものと感じております。

しかしながら、以下のような課題（全国平均に満たなかったもの）も見られました。

- 上体起こし(中2男子以外)、長座体前屈(全)、50m走(中2男子)、立ち幅とび(小5)
- 「体育・保健体育の授業は楽しい」と回答している児童生徒の割合

このような現状を踏まえ、本県では昨年度に引き続き、子供の体力向上推進委員会を設置し、児童生徒の体力向上を図るため、「体育・保健体育の授業の工夫改善」及び「運動の日常化・習慣化」の各提言を推進するため、様々な取組を実施しました。

本書は、提言における考え方や周知活動、指導力向上のための各種研修会、幼児期の運動習慣の確立に向けた取組、体力向上優良校の実践等について、その取組事例を数多く紹介し、これからの体育・保健体育の授業や学校総体で行う児童生徒の体力向上のための取組の参考となるような内容により構成しております。

各学校におかれましては、本書記載の各実践事例の内容や、体力・運動能力の調査結果等を、体力向上の取組の更なる充実や授業改善等に活かしていただきますようお願いいたします。

結びに、本事業の推進にあたり、御協力いただきました関係者の皆様をはじめ、御尽力くださいました体力向上推進委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

令和2年（2020年）3月

熊本県教育庁教育指導局体育保健課長 西村 浩二